

## 【vol.45】ダイアトニックコード・アルペジオ

こんにちは、大沼です。

前回は、インターバルからの逆算、とすることで、“Listen To The Music”の進行を例に、コードをインターバルに当てはめてみました。

それまでは、“コード進行を”インターバル的に見ていましたが、ここ2回のテキストでやったのは、その逆の作業ですね。

これらは、どちらの方向からでも出来ることが大事になってきますので、曲をコピーする度に、分析する癖をつけましょう。

さて、今回は、“ダイアトニックコード・アルペジオ”と、言うことで、

『指板上でコードトーン・アルペジオを弾くエクササイズ』

を覚えていきましょう。

“アルペジオ”というと、コード(フォーム)を押さえて、「タ、タ、タ、ターン」と弦を順番に、重ねて弾いていく奏法を思い浮かべるかもしれませんが。

しかし、今回トレーニングするものは、音を重ねずにコードトーンを1つずつ弾いていくものになります。

このトレーニングフレーズは、ギターソロで(ほぼ)そのまま使えたり、指板上で、コードの構成音が様々な角度から見えるようになりますので、早いうちにマスターしておきましょう。

では、まず設定するkeyですが、今回はkey=Dでいきます。

なぜいつものCではなくDなのかと言うと、練習フレーズの都合上、そちらの方が弾きやすくなるからですね。

何はともあれ、弾いてみれば解かります。

と、言う事で、key=D 時のダイアトニックコードを確認してみましょう。

### ※key=D 時のダイアトニックコード

<b>I、D</b>	<b>(DM7)</b>
<b>II、Em</b>	<b>(Em7)</b>
<b>III、F#m</b>	<b>(F#m7)</b>
<b>IV、G</b>	<b>(GM7)</b>
<b>V、A</b>	<b>(A7)</b>
<b>VI、Bm</b>	<b>(Bm7)</b>
<b>VII、C#m(♭5)</b>	<b>(C#m7(♭5))</b>

当然ながら、key=D の楽曲に対応するスケールは、D メジャースケールですね。

今回のトレーニングは、上のコード一覧の左側、  
トライアドのコードを使って行います。

なので出てくる音は、root、3rd、5th のみになりますね。

各コードの、

- ・3rd が、M3rd になるのか、m3rd になるのか
- ・5th が、P5th になるのか、♭ 5th(dim5th)になるのか

これらを意識しながら練習していきましょう。

それでは、実際の練習フレーズは以下になります。

**譜例、key=D ダイアトニックコード、コードトーン・アルペジオ / トライアド 5 弦ルート**

**※指使いは 3 種類あり、同じ形のものは省略しています**

小 菜 人 中 人 小 小 人 中 人 菜 小 小 中 人 中 人 小 小 人 中 人 中 小

小 中 人 中 人 菜(or小) 人 中 人 中 小

この譜例を基準に、トレーニングを行っていきます。

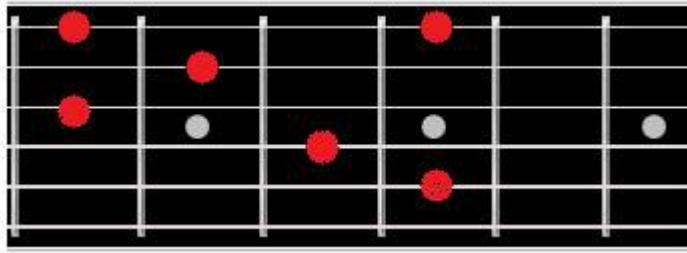
最初は譜例の通りに順に弾いていき、最後まで行ったら戻る、と言うように、上がったたり下がったりを繰り返してみてください。

メジャーキーのダイアトニックコードには、

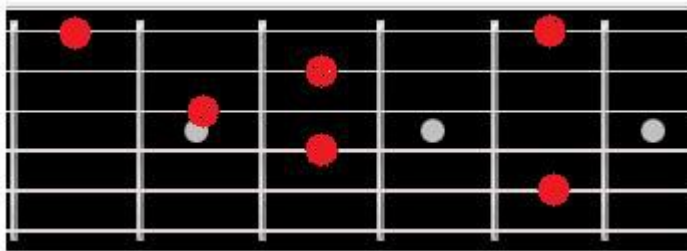
- ・メジャー系コード(メジャー・トライアド)
- ・マイナー系コード(マイナー・トライアド)
- ・マイナー b5 コード(ディミニッシュド・トライアド)

の3種類のトライアドが出てくるのですが、それらのコードの各フォームを、指板上で見ると以下のようになっています。

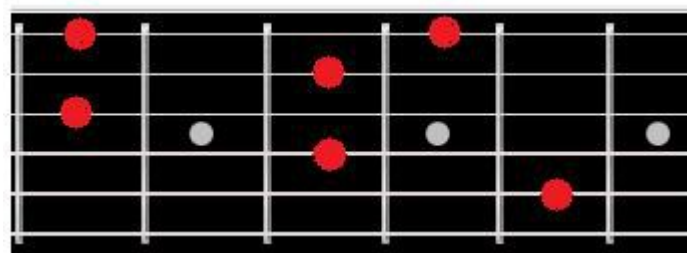
## メジャー系コード(メジャー・トライアド)の5弦ルートのフォーム



## マイナー系コード(マイナー・トライアド)の5弦ルートのフォーム



## マイナー♭5(ディミニッシュド・トライアド)の5弦ルートのフォーム



5弦ルートのトライアドで見る場合、出てくるフォームはこの3種類になります。

この手のコードトーン・アルペジオのトレーニングは、上記以外にも色々なパターンが作れるのですが、まず最初は、これらのフォーム(と奏法)を覚えてください。

最終的には、様々なkeyで、このダイアトニックコードのアルペジオを弾けることが目標です。

鳴らす弦が移る時、音が重ならないように、不要弦のミュートに注意しながら、1音1音丁寧に弾いていきます。

さて、基本的なトレーニングフレーズを学んだところで、

もう1つ、これを発展させた練習にチャレンジしてみましょう。

何をやるのかと言うと、単純に、3音刻みでこのフォームを弾いていく、  
と、言うものなのですが、両手ともに非常に良いトレーニングになります。

以下の様なものですね。

譜例、key=D、ダイアトニックコード、コードトーン・アルペジオ / トライアド5弦ルート3音刻み

The image shows a musical score for guitar in D major, 4/4 time. It consists of two systems. The first system is for the D major chord (D) and the second system is for the E minor chord (Em). Each system includes a treble clef staff with a 3/4 time signature and a bass clef staff with a 3/4 time signature. The treble clef staff shows a sequence of eighth notes with triplet markings (3) and a dynamic marking of *mf*. The bass clef staff shows a sequence of eighth notes with fingerings (1-5) and a dynamic marking of *mf*. The first system is for the D major chord and the second system is for the E minor chord.

先ほどの譜例と同じ要領で、ダイアトニックコードの7つ全てをこの様に弾いて行きます。

7種のコード全てを書くと、凄まじく長い譜面になるので、コード2つ分のみにしませんが、  
概要はわかってもらえると思います。

さて、今回の譜例は以上なのですが、  
これらのトレーニングが最終的に何に使えるのか？と言うと、  
大きく分けて2つあります。

1つめは、まず、指板上でダイアトニックコードが連結して見えて来る様になる事です。

今まで行ってきた、各種スケールトレーニングと組み合わせたり、  
それぞれのフォームや構成音、インターバルが、どういった位置関係になっているのか？

その辺りを意識しながら練習すると、より効果が実感出来るでしょう。

そしてもう1つは、ギターソロのフレーズとして(ほぼ)そのまま使える事ですね。

コードトーン・アルペジオ的なフレーズをソロで使う、と言うのは、1つの鉄板の奏法なのですが、今回覚えたのは、その基礎となるフォームですね。

これらをそのまま使っても、サマになることも多いです、深く勉強していくと、もっと高度な演奏に発展していきます。

今までコピーしたことのあるソロを振り返って見たら、近い形が使われている可能性もあるでしょう。

今回のフォームは、そのままでは、そこまで使われませんが、大きく指板上を動くスウィープ形のフレーズも、こう言ったコードトーン・アルペジオのフォームが元になっていたりします。

あとは、使い方によっては、ワザと半音ずらしたりして、アウトっぽい感じ(調性=key から離したり、近づけたり)を、手軽に表現することも出来ますね。

フュージョンのようなジャンルが好きな人は、必須と言ってもいいでしょう。

この辺りのソロのアプローチは、講座の後半の方で触れていこうかと思っています。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼